

# ビワ生育情報

千葉県  
平成19年10月号

## 平成19年7～9月の気象

平成19年7～9月の気象は表1に示した。7月の平均気温は第1半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月平均は22.8 で平年より1.5、前年より0.8 低かった。降水量は第1、第2及び第4半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、14日には台風4号の接近に伴い1200mmを越す大雨があったため、月合計は386mmで平年の2.1倍、前年の1.6倍であった。日照時間は全ての半旬で平年を下回り、月合計が97時間で、平年の55%、前年と同程度であった。

8月の平均気温は第6半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、月平均は26.6 で平年より0.8 前年より1.2 高かった。降水量は全ての半旬で平年を下回り、第1～第4半旬には降雨がなかったため、月合計は7mmで平年の4%、前年の2%であった。日照時間は第1～3半旬で平年を上回ったが、第4～6半旬の値が欠測したため、第3半旬までの合計は159時間で平年の1.4倍、前年の1.5倍であった。本年の関東地方の梅雨明けは、8月1日で平年より12日、前年より2日遅かった。

9月の平均気温は第1、第3及び第6半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、月平均は23.4 で平年より0.4、前年より0.9 高かった。降水量は第4～第6半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、7日には台風9号が小田原市に上陸したことに伴い1100mmを越す大雨があったため、月合計は287mmで平年の1.1倍、前年の1.5倍であった。日照時間は第4及び第5半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月合計は137時間で平年の94%、前年の99%であった。

表1 平成19年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温( )			降水量(mm)			日照時間(時間)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	22.9	22.7	23.3	13	37	46	11	21	12
	2	21.7	23.3	23.4	7	46	19	12	23	5
	3	23.1	24.4	26.0	291	29	0	1	25	34
	4	20.8	24.5	22.8	22	24	70	10	28	6
	5	23.5	25.1	22.5	30	24	83	26	33	5
	6	24.4	25.8	23.8	25	23	20	37	44	30
月平均/計		22.8	24.3	23.6	386	183	236	97	175	93
8	1	26.6	25.8	23.7	0	28	0	44	37	44
	2	26.8	25.9	25.2	0	24	257	61	37	33
	3	27.5	26.0	25.8	0	24	4	54	36	30
	4	27.3	25.9	27.0	0	33	33	*	35	26
	5	26.5	25.8	25.9	4	27	1	*	35	35
	6	25.4	25.6	24.8	3	29	0	*	40	30
月平均/計		26.6	25.8	25.4	7	166	294	(159)	(110)	(107)
9	1	24.0	25.0	23.0	34	27	34	19	31	37
	2	25.0	24.5	26.2	124	46	35	23	28	25
	3	23.2	23.8	21.6	70	29	1	16	25	7
	4	24.8	22.7	23.3	0	38	14	38	22	25
	5	24.1	21.6	23.1	0	47	0	30	20	33
	6	20.1	20.5	20.2	60	64	113	12	20	13
月平均/計		23.4	23.0	22.5	287	250	195	137	146	139

\* : 欠測値

( )内数字 : 第1～第3半旬までの合計

## 台風による被害を受けた樹の管理

本年は今までに3個の台風が日本列島に上陸している。7月14日に台風4号、9月7日に台風9号が関東に接近あるいは上陸し、最大瞬間風速はそれぞれ22.4m、35.5m(館山測候所調)を記録する程の台風であったが、幸いなことにビワ産地では生産に差し障りが出るような大きな被害は発生しなかった。強風によって樹が倒された場合には樹を起こし、損傷程度に応じて枝を切りつめる。

起こせない樹はそのまま栽培を続けるが、管理しやすいように枝を整理し、倒伏によって根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復をはかる。このときパーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。紋羽病の恐れのあるところは防除基準に従って散布する。

### 11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月からひき続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

#### 摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。1樹の全新梢数の半数の枝に花房を残す。発育不良の花房、混み合った花房等の不要な花房を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房をすると、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、樹内の花房数が少なくなるので翌年の摘果作業が軽減される。

摘房と同時に、残したつぼみを摘蕾する。花房基部から3段目までの小果梗の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾はつぼみの充実を促すので摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmの時に摘蕾するのが最も有効で、開花期の延長を図ることができる。寒害を受けやすい園ではこの時期を逃さないように早めに摘蕾を行う。

#### アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大形のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈にそって並んで加害する。寄生した葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので短期間のうちに、はなはだしい落葉を見ることがある。また排泄物はすす病を誘発する。

防除は発生状態を見て随時行うが、発生初期に行うのが効果的である。11月はナシなどから移ってきて繁殖期に入るので、この時期の防除は春の発生を抑えるために有効である。

### 樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」が9月10日で平年より4日、前年より7日早かった。「大房」が9月11日で平年より8日、前年より13日早かった。「田中」が9月8日で平年より7日、前年より13日早かった。これは梅雨明け後、晴天が続く高温・寡雨による土壌乾燥の影響と考えられる。

夏枝及び秋枝の発生は平年並みで樹の生育も順調である。

表2 花房発現期(暖地園芸研究所)

品 種	本 年 (月.日)	平 年 (月.日)	前 年 (月.日)
楠	9.10	9.14	9.17
大 房	9.11	9.19	9.24
田 中	9. 8	9.15	9.21

平年：1983年～2006年の24年間の平均

【生育情報の問合せ先：千葉県農業総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話0470-22-2961】

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>